

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 14 日現在

機関番号：33403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381289

研究課題名(和文) 異文化トレーニング学習支援システム開発のための理論的・実践的研究

研究課題名(英文) Developing Effective Teaching and Learning Methods using an Original E-Learning Programme of Intercultural Training in Blended Learning Environment in Japanese Higher Education

研究代表者

加藤 優子 (Kato, Yuko)

仁愛大学・人間学部・准教授

研究者番号：90570614

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：最初に、米国・カナダにおける調査により、最先端の研究資料を収集した。次に、ICTを用いた異文化トレーニング学習支援システムの改良版を実装した。さらに、本システムの内容は、実社会で異文化理解に関する課題解決を目指した異文化コミュニケーション活動を行うための実践的知識の育成には至っていない、という課題が見えてきた。そこで、研究代表者は、知識を日常生活で適切に活用し行動する力を養成する批判的思考教育の方法に着目し、古くから異文化理解に関する社会的問題を抱えた英国の経験を学ぶことを視野に入れつつ、英国で教育学を専門とし、批判的思考教育と本研究を熟知している研究者と国際共同研究を開始した。

研究成果の概要(英文)：The original intercultural training programme using ICT was effective for improving students' intercultural awareness and understanding, while a need for theoretical research of teaching methods to further cultivate students' understanding was suggested. The researcher, therefore, has started a joint international research to investigate effective teaching and learning methods by using an original e-learning programme of intercultural training in a blended learning environment.

研究分野：教育学

キーワード：異文化トレーニング ICT

1. 研究開始当初の背景

異文化トレーニングは、異文化環境下での目的達成・良好な人間関係・意味のある生活を可能にする、異文化間能力の育成を主たる目的として主に米国で発展してきた(小池、2000)。国内にいながらにして異文化環境下にあるような経験的学習ができる異文化トレーニングの手法は、近年日本の高等教育において強化されている語学教育や留学制度とは異なる切り口で異文化理解力・異文化間能力を育む教育方法であり、その理論と実践研究の重要性は高い。

しかし、日本の高等教育における異文化トレーニングの多くは単発的、または言語教育内で二義的に実践され、教育方法から効果測定まで一貫した理論的・実践的研究は十分ではなかった(森山、2010)。

研究代表者は、異文化トレーニングの実践に関わる問題を、Information and Communication Technology (ICT) を用いて改善することに着目した。しかし、国内外に既存の ICT による異文化トレーニングは、企業による開発が主流で学術的研究は少ない(SIIC、2010)。そこで、工学分野の研究者との連携による学際的な共同研究として、ICT を用いた異文化トレーニング学習支援システムを開発した(注1)。本システムは、学習を楽しく進める動画やゲーム機能を持ち、既存の LMS や市販のアプリケーションよりも高い機能性と安全性を持つ。また、これまでの対面実践形態では実現不可能であった、他者の回答を即時閲覧する機能を持ち、多様な価値観を学ぶ機会を広げることに成功した。さらに、回答結果を保持する機能は、今後の継続的研究をも可能にした。

ただし、本システムは対面授業の支援という前提のため、より専門的な内容となっている。全学生を対象とすると、ケラーの ARCS モデル(鈴木、2009)や、ガニエの9教授事象(玉木他、2010)を基盤とした理論的整備が不十分になる。また、学習に対する一定の評価を付与する機能も十分ではなく、支援方法も課題となっていた。そこで、これまでの研究を本研究の予備的実践と位置づけ、学生の専門領域に関わらず、全学生が学べる内容と機能を追究することが、本システムの普及すなわち、異文化に対する理解を深め、異文化間能力を育むツールの普及のために重要と考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、学生の専門領域に関わらず、高等教育機関に在籍する全学生が学習できる異文化トレーニング学習支援システムの開発を目指し、その教育目的と内容の理論的・実践的研究を行うことである。具体的には、異文化コミュニケーション学専門の研究者への面接調査による理論的研究、

基づく学習支援システムの実装と実践的研究、そして、異文化トレーニング学習支援システムの改善をめざしつつ、実践をめぐる課題について探究する。

3. 研究の方法

本研究は、以下の2つの方法によって進められた。

(1) 異文化コミュニケーション学専門の研究者への面接調査

米国の研究者への面接調査で、最新の ICT による異文化コミュニケーション学の効果的な手法を学ぶ。ICT 教育関連の文献調査を行いつつ、米国の先端的な研究文献を収集する。異文化トレーニング学習支援システムの教育目的・内容の理論的整備を行う。

(2) 実践的研究の継続

実践に基づくより適切な学習支援システム機能の拡充を行う。

(1)(2)の研究を基に、これまでの理論的・実証的研究から見えてくる、ICT を用いた異文化トレーニング手法の課題を明確にしようと試みた。

4. 研究成果

2014年度は、国内外にて異文化コミュニケーション学の先端をゆく研究者への面接調査を行い、教育目的・内容の理論的整備を主眼とした。

最初に、米国の異文化コミュニケーション学研究所(ICI)にて開催される、異文化コミュニケーション学の研究者らが全米より集う研修会に参加し、異文化トレーニングに関する最先端の動向について研究した。

次に、専門家からの知見を得るため、異文化コミュニケーション学における評価方法に詳しい研究者1名を対象に面接調査を実施した。面接においては、米国にて異文化トレーニングを実施している様々な機関で利用されている、異文化間能力の評価を目的としたテスト類の紹介を受けた。これらのテスト類は、日本国内での利用実績とその実証的研究が少ないため、今後の研究を進める上での貴重な資料となり得るものといえる。

さらに、異文化コミュニケーション学が盛んであるカナダのプリティッシュ・コロンビア大学を訪問し、そこで通信教育による異文化コミュニケーションコースの担当者1名を対象に面接調査を行い、カナダでの異文化コミュニケーション学の実施状況に関する知見を得た。

海外における調査に加え、国内における面接調査も実施した。面接対象となった研究者1名からは、国内の高等教育機関における異文化コミュニケーション学の教育および評価方法についての知見を得た。

このようにして、国内外の研究者に対する

面接調査を通し、本研究の主要な課題であるICTを用いた異文化トレーニングの教育と評価に関する資料収集と、理論的研究に関する考察を深めることができた。

2015年度は、高等教育における実践とシステムの改良を主眼とした。

最初に、高等教育機関にて実践を行った。対象学生に対し行った事前・事後アンケートを行い、フィードバックで改善すべき点を検証して、より質の高い学習支援システムの内容と機能の追究を継続している。

次に、前年度の調査を引き継ぐ形で、本研究と関連のある多文化共生社会に関する情報収集と、多様なトレーニング類の研究を行った。日本の多文化化する社会の現状については、東京で開催された研修に参加することにより、最新の情報を得ることができた。異文化トレーニングに関連するトレーニングとして、アサーティブトレーニングについての研修に参加し、本研究に取り入れることのできる方法について考察を深めた。

このように、高等教育機関にて異文化トレーニング学習支援システムの実践を行いつつ、本研究に関わる領域である日本の多文化共生社会についての最新の情報と、異文化トレーニングに関連するアサーティブトレーニングの方法を学ぶことにより、本研究の教育内容と方法に関する考察を深めることができた。

最終年度では、異文化トレーニング学習支援システムの実践を継続しつつ、新たに国際共同研究として、海外の研究者との共同研究を開始した。

まず、これまでの教育方法に関する研究を基盤とし、研究分担者の指導のもと、工学研究科学生による派生的な異文化トレーニングシステムの改良版の実装を行うことができた。

次に、これまでの実践的研究により、本システムの内容は、異文化トレーニングの目的の1つである、実社会で異文化理解に関する課題解決を目指して異文化コミュニケーション活動を行う実践的知識の育成には至っていないという課題が見えてきた。

そこで研究代表者は、知識を日常生活で適切に活用し行動する力を養成する、批判的思考教育の方法に着目した。社会における問題の所在を明確にし、論理的に考え、問題解決を目指す批判的思考を育む方法は、実践的知識に基づくコミュニケーション能力育成の基盤とされ、英国のシティズンシップ教育(Davies, 2005)や、日本の高等教育の人材育成論にて重要な教育方法と位置づけられている(楠見, 2014)。研究代表者が2014年度に参加した米国の研修会においても、批判的思考を育む方法で研修がなされていた。

その方法を、本システムと同時に行う授業の基盤として組み込むことで、異文化トレーニング学習支援システムの学びを通し基礎的知識を得た学生が、実社会で起こり得る異

文化理解に関する諸問題を論理的に分析し、適切な異文化コミュニケーション活動によって解決を図ろうとする実践的知識の習得へと導くことができるのではないかと考えた。

そのためには、日本より早くから多文化共生社会を形成した諸外国の教育学者から、異文化理解に関する諸問題と教育に関する知見を得、日本社会における同様の課題をより客観的・多角的に捉え、本システムの異文化トレーニングと批判的思考教育に関する考察を深め、内容の発展につなげる必要があると考えた。そこで、研究代表者が留学経験のある、英国社会における異文化理解に関する問題の学習を視野に入れつつ、英国で教育学を専門とし、批判的思考教育と本研究を熟知している研究者と共同で、異文化トレーニング学習支援システムと批判的思考教育によるブレンディッド教育方法を考案し、実践的知識を育む授業モデルを確立することを目指すこととした。このようにして、本基盤研究の最終年度より、国際共同研究強化に取り組むこととなった。

本基盤研究は終了となったが、国際共同研究強化により、語学教育や留学制度とは異なる切り口で学生の異文化間能力を育み、多文化化する日本社会で必要な実践的知識を備えたグローバル人材の育成に寄与できる、異文化トレーニングの特長を最大限に生かす教育方法の追究を継続している。

(注)

(1)平成21~22年度福井県大学連携リーグ連携研究推進事業採択課題。課題名:「異文化交流分野におけるトレーニング事例のデータベース化と教育支援ツールの研究」、研究代表者:加藤優子、共同研究者:小倉久和*、黒岩丈介*、諏訪いずみ*(*福井大学工学研究科知能システム工学専攻)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(参考文献)

小池浩子(2000)「異文化間コミュニケーションの実践・応用」西田ひろ子編『異文化間コミュニケーション入門』創元社 310-334.

鈴木克明(2009)『教材設計マニュアル:独学を支援するために』北大路書店

楠見孝(2014)「『批判的思考力』と大学教育」『IDE-現代の高等教育』560: 23-27.

玉木欽也、大沼博靖、権藤俊彦、斎藤長行、長沼将一、山根信二、石井美穂、合田美子、半田純子、堀内淑子、松田岳士(2010)『これ一冊でわかるeラーニング専門家の基本:

ICT・ID・著作権から資格取得準備まで』東京電機大学出版局

森山美雪 (2010) 「異文化トレーニングにおける大学生の学び シミュレーション「アルバトロス」の効果について」『異文化コミュニケーション』13: 105-119.

Davies, I. (2005) Citizenship education: a discussion of issues arising in England. *The Journal of the Sagami Eibun Society*. 23 : 33-51.

Summer Institute for Intercultural Communication (SIIC) (2010) Intercultural Training and Assessment Tools (a handout of SIIC). OR: Intercultural Communication Institute.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

加藤優子 (2015) 「留学によって育まれるグローバル人材の要素についての一考察：異文化トレーニングの可能性と課題」『仁愛大学研究紀要人間学部篇』, 査読無, 第13号、51 - 61 .

Yuko Kato, Izumi Suwa, Yoshitomo Itakura, Toshiyuki Hamada, Jousuke Kuroiwa, Tomohiro Odaka (2014) Intercultural Training in a Blended Learning Environment in Japanese Higher Education. *The 9th International Conference on Computer Science & Education*, 査読有、ISBN978-1-4799-2951-1、<http://www.yeedao.net/iccse2014/cd/start.htm>、390-393.

Chris Kyriacou and Yuko Kato (2014) Undergraduate students' motives towards volunteer civic engagement in England and Japan. *Psychology of Education Review*, 査読有、38(1)、33-39.

[学会発表](計5件)

今井佑輔, 黒岩 丈介, 小高 知宏, 諏訪 いずみ, 白井 治彦 (2016) 「背中合わせゲームのアプリ化による異文化理解支援」平成28年度電気電子関係学会北陸支部連合大会、於福井工業大学。

加藤優子 (2015) 「大学生の持つ“常識”や“価値観”について 異文化トレーニング学習支援システムより見えてきた傾向」『異文化間教育学会第36回大会、於千葉大学。

加藤優子 (2014) 「異文化トレーニング学習支援システムに関する研究」第29回異文化コミュニケーション学会年次大会、於上智

大学。

Yuko Kato, Izumi Suwa, Yoshitomo Itakura, Toshiyuki Hamada, Jousuke Kuroiwa, Tomohiro Odaka (2014) "Intercultural Training in a Blended Learning Environment in Japanese Higher Education." The 9th International Conference on Computer Science & Education (ICCSE), 於カナダ。

加藤優子 (2014) 「留学によって育まれるグローバル人材の要素についての一考察 経験的な学習を重視した教育方法の価値と課題」『異文化間教育学会第35回大会、於同志社女子大学。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤優子 (KATO, Yuko)

仁愛大学・人間学部・准教授

研究者番号：90570614

(2) 研究分担者

黒岩丈介 (KUROIWA, Jousuke)

福井大学・工学研究科・准教授

研究者番号：10282104